

# 郡上農林事務所の普及活動状況 [5月]

令和元年5月24日現在

## 今月の重点活動

### ■新規就農 郡上市の新たな担い手確保を目指して

中濃地域就農支援協議会(構成：JAめぐみの、郡上市、郡上農林事務所等)では、県内外から各種品目の新たな担い手確保に取り組んでおり、5月13日にぎふアグリチャレンジ支援センターの協力により、トマトへの就農希望者への視察対応を行った。

当日はJAが運営する「郡上トマトの学校」の取り組みを中心に視察し、郡上市から新規就農するまでの各種支援について説明があった。農業普及課からは地域での栽培上の特徴等について助言を行った。また、参加者の希望により、実際に新規就農した農業者を訪問し、生活面も含めた郡上市で夏秋トマト経営について話を聞き、参加者は熱心に質問され、活発な視察となった。

今後も農業普及課は、支援協議会等関係機関と連携を図り、郡上市での担い手の確保、新規就農者の支援を続けてゆく。



【トマトの学校視察の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■大麦 大麦の高品質、安定生産を目指して

郡上市では、土地利用型経営体の経営補完品目として大麦を栽培しているが、さらなる高品質、安定生産を目指し、奨励品種決定調査により新しい品種の試作を行っており、収穫を控えた5月23日に成熟期の調査を行った。

農業普及課では、地域の営農組織の協力のもと、品種の特性を把握するため、11月上旬の播種以降定期的に調査を行っている。これまでの結果からは、新しい品種は従来の品種に比べ出穂期がやや早く、外観上も稈長(穂首までの高さ)が短いため倒伏に強いことが予想され、栽培面からは有望であると判断している。

今後は、坪刈りにより収量性、品質面での調査を行い、品種の特性を把握していく。



【収穫前の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■夏秋イチゴ 新品種育成試験を開始

郡上市高鷲町のひるがの高原いちご組合は、5月13日に組合員のハウスにおいて、県農業技術センターの交配選抜21系統の定植作業を行った。

現在、組合では民間企業育成品種である「すずあかね」を栽培しているが、夏場の気温上昇により年々栽培が難しくなっていることから、地域に適応した県オリジナル品種の開発が期待されている。

今後、農業普及課では、農業技術センターとともに生産組合やJAと連携しながら、生育状況や果実品質などの調査を行い、現地での有望性について評価し、産地ブランドの向上について取り組んでいく。



【現地試験の状況  
(5月23日)】